

平成16年度高等教育改革推進経費報告

動物介在活動と療法に関する教育研究プログラム

Azabu animal-assisted therapy and activity educational program

太田光明

麻布大学大学院 獣医学研究科動物応用科学専攻

Mitsuaki Ohta

Course of Animal Science and Biotechnology, Graduate School of Veterinary Medicine, Azabu University

Abstract. The Azabu animal-assisted therapy, AAT, and activity, AAA, educational program is the 2 years curriculum to educate students who will engage in the AAT and AAA. It was begun for the postgraduate and undergraduate students in April 1, 2002, which is the first endeavor at the universities in the world. The program was developed by Dr. Dennis C. Turner who is the visiting professor at Azabu University. The program is not only admitted as a national license for the AAT/AAA in Switzerland, but also highly estimated in Europe and the United States of America. The 1st and 2nd students have finished the program, and the students were given the certificates for the completion of the program.

The program has been continued for the 3rd and 4th students, and the lectures have been performed on diverse fields as follows: the instruction for the interaction between human and animal, the fundamental knowledge and technique for the AAT/AAA by Dr. Dennis C. Turner; zoonosis, animal and the rehabilitation of juvenile delinquents, old people's psychology and so on by 7 Japanese instructors.

目 的

麻布大学 AAT/AAA 教育研究プログラム (Azabu animal-assisted therapy and activity educational program) は欧米先進国から15年以上の遅れをとっているといわれる我が国の「人と動物の関係学」分野とそれに付随する「AAT/AAA」分野の引き上げおよび充実をめざし、平成14年度より開講された。本教育プログラムは本学客員教授である Dennis C. Turner 博士 (スイス) が1999年にドイツ語圏向けに完成させたプログラムをわが国の実情に合わせて改変したものである。プログラムを受講し、修了した者には、修了証書 (認定書) が授与される。この認定書はスイスでは国家資格として、また、ドイツ語圏においても国家資格に相当するものとして評価のあるものである。

原則として、講義は英語で行われる。本年度 (平成16年度) も4月より動物介在療法 (AAT) ならびに活動 (AAA) に関する教育プログラムを開講しており、昨年度とほぼ同様のカリキュラムが実施された。

本年度講師陣は、Dennis C. Turner (スイス)、岩橋和彦 (本学)、太田光明 (本学)、植村興 (本学客員教授)、大谷伸代 (本学非常勤講師)、安藤孝敏 (横浜国立大学)、徳沢實 (北米障害者乗馬協会上級インストラクター) の7名からなり、主に大学院生を対象に実施した。平成17年3月までに70時間の講義、および論文 (レポート作成) を修した者に対し、Dennis C. Turner、太田光明、および岩橋和彦の署名を付した認定証が発行された。

結果と考察

本教育研究プログラムは平成14年4月より開講しており、平成16年3月には第一期生が2年間のカリキュラムを終え、修了証（認定証）を取得した。また、平成17年3月には、二期生が本教育プログラムを修了した。現在、三期生、および四期生に対する講義および実習が行われている。

AAT/AAAについての総括的な講義は、本教育プログラムの開発者であるDennis C. Turner博士によって行われた。獣医師で、保護司でもある植村興氏から厚生活動における動物の導入の試みについて、心理学博士である安藤孝敏氏は高齢者と高齢者を対象としたAAT/AAAの実施について、北米障害者乗馬協会上級インストラクターである徳沢實氏から諸外国での療法的乗馬について、獣医師である大谷伸代氏から人獣共通感染症についての講義が行われた。太田光明からは、AAT/AAAの総括的な実状と諸外国の動向に関する講義が行われた。

Dennis C. Turner教授は4月および10月の2回に分けて、計10日間の講義を実施した。

4月は、人と動物の関係学に基づき、AAT/AAAに最もよく使用される動物種であるイヌおよびネコをはじめとし、それぞれの動物種の家畜化の歴史、さらにそれらの動物と人の今日に至るまでの関係の変化、行動学的特徴とその比較に関する講義が実施された。また、動物が人の健康と福祉に与える効果、および動物種による効果の違い、対象者の病状に合致したプログラム作成と留意点、動物の適切な選別、ストレスを考慮した飼育・管理方法に関する講義が行われた。また、AAT/AAA実施時における人側、動物側の両側面からの倫理的な問題を取り上げ、ディスカッションが行われた。さらに、現在までに行われてきたAATの事実例として自閉症児、心臓疾患患者、LD（学習障害児者）、およびCD（行為傷害）を例に挙げ、それぞれの具体的なAAT/AAAのプログラムとその成果・研究の紹介があった。

本学客員教授である植村興氏は、2004年7月に「更生活動における動物」と題し、刑務所内における犬を用いた更正プログラムであるプロジェクト・ブーチ責任者ジョアン・ドルトン氏を迎えた講演、英国SCAS（The Society for Companion Animal Studies）

代表であるエリザベス・オームロッド氏、及び前代表メアリー・ワイアム氏によるヒューマンアニマルボンドをテーマにした講演について総括的に、また、保護司である自身の経験から今後の日本での少年院教育に関する講義を実施した。本講義では刑務所内におけるペット飼育がもたらした収容者への精神的変化とその効果、米国の少年院内でシェルター（保護施設）における犬のトレーニングおよび世話を少年たちに任せる更生プログラム（プロジェクト・ブーチ）を例に挙げ、日本の更生施設における動物導入の有用性、および実行にともなう効果や問題点など日本独自のプログラム作成について講義された。

安藤孝敏氏の講義は、2004年9月に実施された。講義内容は「老人心理学」であり、日本の総人口の約20%を占める高齢者を対象としたAAT/AAAの実施と高齢者について知ることの重要性について講義が行われた。講義は、「高齢者とは何か」を主に、それに伴う老化のとらえ方、老化説、老化の現れ方について行われ、さらに、加齢に伴う身体的・精神的機能の変化と感覚・知覚、精神運動機能、記憶に関するものであった。また、老年期のパーソナリティとその適応の際に生じるパーソナリティの変容、および特徴、類型等を詳細に述べ、高齢者について総体的に把握した上で、老年期の異常心理、老年期痴呆、高齢者と死について、事例をもとにした異常心理、痴呆、さらに高齢者への心理的対応・援助の方法を講義された。

徳沢實氏による講義は、2005年1月に実施された。講義内容は「療法的乗馬概論」、「療法的乗馬（各論）」であった。療法的乗馬の概要や組織について諸外国での経験をもとに講義された。馬の特性を理解したうえでの調教方法、実際に療法的乗馬を行う際の注意点、問題点、安全性を重視した指導方法について講義された。また、療法的乗馬における効果とその測定および検証の困難性について述べ、実験設定、測定方法の詳細についての講義であった。

大谷伸代氏による講義は2004年10月に実施された。講義内容はAAT/AAAを衛生的かつ安全に進めるにあたり必要不可欠である「人獣共通感染症」に関するものであり、一般的にAAT/AAAにおいて用いられる犬、馬、猫、イルカを含めた幅広い動物種について講義があった。

現在まで2年間のプログラムを修了した第一期生4名(小田切敬子, 内山秀彦, 辻村愛, 秋山順子), 第二期生2名(犬竹順子, 和賀央子)の計6名の受講生が認定証を受けた。この認定書は日本はもちろん, ヨーロッパ, 北米でも通用するものであり, 社会での活躍が期待される。

尚, 認定証を得た6名の課題レポートは, それぞれ質的に高度なものであり, 学術雑誌への投稿が予定されている。

要 約

平成14年から始められた動物介在活動・療法(AAT/AAA)教育プログラムは, 2年間で修了する継続的な教育カリキュラムであり, AAT/AAAに関わる人材を育てるために行動学者, 人と動物の関係学の研究者, 動物福祉の研究者, 獣医師, 心理学者, 精神科医, 心理療法士らにより実施されている。

本学では, Dennis C. Turner博士を含む教育・研究者と本学教員からなる講師陣を構成し, 獣医学部ならびに獣医学研究科の研究教育カリキュラムへの導入を図った。英語で行われる本プログラムの講義は, 心理学, 人と動物の関係学, 人と動物に関する行動

学, 動物の心理学, AAA/AATに携わる動物への適切なケア, AAT/AAAに関する倫理や危機管理, 患者自身の安全管理, 人畜共通感染症, 産業動物や野生動物を用いた作業療法など多岐の分野にわたる。さらに, 2年間に英語による課題レポートの提出と英語の口頭試問による最終試験が行われる。

Turner博士(Institute for applied Ethology and Animal Psychology 所長, スイス, 本学客員教授)によって開発されたこのプログラムは, 1998年に行われたプラハでのIAHAIO(International Association of Human and Animal Interaction Organizations)国際会議で発表され, 1999年の4月に第一期生をスイスで迎え, 現在はアメリカをはじめ国際的に認知されている。

このプログラムを修了することによって得た認定証は, 日本はもちろん, ヨーロッパ各国および北米でも通用するものである。本学においても2004年3月に認定を受けた第一期生に続き二期生が本プログラムを修了し, 認定を受けた。また, 現在受講している第三期生, 第四期生への修了後の活躍が期待される。